

尼崎市立園田東小学校の豆島環境学習会



実施日 2020年10月7日（水）、10月13日（火）

実施場所 兵庫県尼崎市立園田東小学校、豆島

編集著者 出本 眞次

10月7日 園田東小学校で豆島上陸環境学習会の事前講座を実施

1 時限 45 分の授業で、最初に「豆島について」という内容で、豆島と猪名川とその周りの歴史の話を山口さん（豆島プロジェクトチーム代表）が話した。その後、豆島は小さな森と川、海の生態系の縮図であることを出本が話した。

豆島と猪名川とその周りの歴史

1. ^{いながわ}今、小学校の東側の猪名川は昭和 37 年頃に出来た川です。
2. それまでは、今、豊中市との間にある旧猪名川と言われる川が猪名川だったのです。そして元の猪名川も藻川も曲がりくねった川でした。
3. だから、今小学校のある東園田 7 丁目、8 丁目も戸ノ内でした。昔、戸ノ内はもっと広く東園田 6 丁目あたりや、藻川の向こうの弥生ヶ丘墓地の一部も戸ノ内だったと言われています。
4. ^{くらはし}昔々、戸ノ内は棕 橋 と呼ばれていました。今は棕橋と言う地名はありませんが、戸ノ内町 2 丁目と豊中の間にかかる橋が「棕橋」で、橋の向こうの豊中市庄本に「棕橋神社」などの名前が残っています。
5. 昭和 5 年の国勢調査では、園田村 7,855 人で、その内、戸ノ内は 2,211 人、第 2 番の上坂部は 1,139 人とダントツでした。
6. ^{れんしゅうじょう} ^{ぼうせき}そのころ、今のゴルフ 練 習 場 の所にモスリン紡績の工場がありました。その会社が大阪の加島との間に橋をかけ、それを村に寄贈しました。今の橋はその時の橋とは違いますが、今のモスリン橋の始まりです。
7. 新猪名川ができたころ、猪名川と藻川が一緒になる所には先がとがった形になっています。
8. ^{ていぼうこうじ}昭和 60 年代の始めの堤 防 工事により、先が丸くなり、今の「豆島」が切り取られて残りました。
9. ^{かりゅう}この「豆島」は猪名川・藻川の一番下 流 にあるため、上流から色んな木、草、花の種が流れ

てきて、猪名川・藻川全体の木や花が「豆島」にはあります。又。この辺りは海から海水も流れてきて、川の魚も海の魚も見ることが出来ます。

せつめい

10. それらは来週、「豆島」で説明を受けて、草や木や花や魚を見て下さい。

以上の10項目に分けて、地図や写真を見せながら話した。

豆島は小さな森と川、海の生態系の縮図

山の自然環境が健全でないと海の生き物も育たない。スギやヒノキなど針葉樹の山だけでは昆虫や動物、鳥も生きて行けない。多様な植物が育っていてクヌギやどんぐりのなる山でないと熊なども生きて行けない。だから食べ物を求めて里に熊も出て来ることを説明した。

山で広葉樹、落葉樹の落ち葉や生き物の糞や養分が自然を育て、山の鉄やカルシウム、ミネラルが海にもたらされることをやさしく話した。黒板に山と川、木と葉っぱ、広葉樹の葉っぱ、針葉樹の葉っぱをかくて説明した。山の養分をもとに、植物プランクトン、動物プランクトン、海藻、カキや貝、エビやカニ、ハゼ、ウナギと食物の連鎖が続くことを話した。

豆島は小さな魚付き林、付近の魚やカニやエビ類の住みか

「豆島」は小さな森と川の生き物の生態系の縮図のため、島の植物の植生、昆虫類等の繁殖で島の周りには生命のつながり出来ている。川の生き物は豆島からのミミズや昆虫類を餌に出来、多くの魚やカニやエビ等が住み着いている。山と川と海はつながっていて、山の栄養が川によって海にもたらされて、多くの生き物が暮らしていることを話した。

「森は海の恋人」であり良い森が無ければ海の多くの生き物も育たないことを説明した。

豆島は森であり、その周りに住んでいるウナギは5年から10年たつと産卵のために日本から遠く離れたマリアナ海溝までの半年3,000kmの旅に出て、新月の夜に、甘い海水と辛い海水の境目の塩分フロントで何万匹と親ウナギが集まって一斉に産卵するウナギの不思議を話した。

何故新月の暗闇で産卵するのかと問われ、暗いと折角産卵した卵を他の捕食者に食べられにくく、多くの卵が生き抜くことが出来ることを話した。

生徒や先生には、うなぎ持続可能プロジェクトSEFIのパフレットを配布してニホンウナギの生態の図を見せながら説明した。産卵した卵は、最初は葉っぱのような形になり海流に乗って再び半年3,000kmの旅で日本にシラスウナギになってやってくることを話した。

広い海の何を目標に旅が出来、産卵場所までたどり着けるかはまだ謎のままで分かっていない。推理としては、マリアナ海溝まで続く海底山脈の何らかの磁気や匂いを感じて旅をするのではないかとと思われることも話した。

10月13日 園田東小学校の豆島上陸環境学習会を実施

小学校3年生の環境学習会を豆島上陸作戦で、10月13日に実施した。

生徒22名、先生3名、豆島プロジェクト会員4名でそれに漁業組合員3名の参加である。安全のために全員ライフジャケットを着用して、救命艇（大呂さん）としてカヌー1隻で万一来た。生徒は3班に分かれてそれぞれ漁船に分乗して豆島に向かった。

豆島上陸地点では早速、黒弁慶ガニを生徒が捕まえていた。豆島の上では、藤原さん（豆島プロジェクトチーム、態学専門家、樹木医）から色々な樹木や、草花の観察を、説明を聞きながら学んだ。豆島のそばには、猪名川にあった沢山の石を捨てて（置いて）もらい小さな石倉として活躍している。多くの蟹やエビハゼ類そしてもちろんウナギの住みかになっている。

最後に船着き場に降りて漁業組合の人の筒漁を見学して、再び漁船に乗り込み、筒漁で取れた魚や蟹を観察した。大きなウナギや大きな蟹に感動していた。漁で漁獲したモクズガニ、ウナギ、カワアナゴ、マハゼをもらい小学校で飼育することにした。

生徒たちは、1名を除いてみんな初めての豆島上陸であったので、たいへん喜んでた。

登下校時に豆島を眺められる生徒もいるので、尼崎市で唯一の島に上陸した体験を思いながら眺めるだろう。



豆島に向かって藻川漁協の船に、乗船して、豆島に上陸

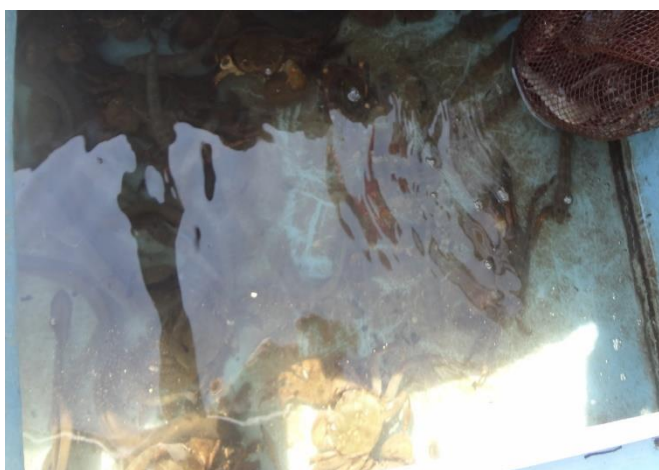




豆島について学習、主に植物について、詳しく観察



藻川漁業組合員の筒漁を見学、大きな蟹やウナギが取れるのを楽しみに見る



取れたウナギ、モクズガニ、カワアナゴ、マハゼ、等を漁船の生簀を覗いて観察

豆島にはえている植物

以前は豊富なヨシに縁どられた豆島だった。島には、よく似たセイタカヨシ（冠水に弱い）がある。魚の産卵場の漁礁としても重要な位置にあったが、度々洪水等により削りとられた。

主な植物は以下の通りである。

- ・センダン（梅檀）は落葉高木で、春に美しい淡紫色花を咲かせ、秋には黄褐色実をつけて迎えてくれる。鳥類（カラス、シロハラ、ヒヨドリ、ムクドリなど）の食餌植物である。センダンの樹皮（苦楝皮）は回虫、条虫等の駆虫薬、果実（苦楝子）は駆虫薬、鎮痛薬に用いられ、民間薬では果肉をヒビやアカギレに塗ると効果があるとされている。
- ・センニンソウ（仙人草）は蔓植物で、白い美しい花を夏に咲かせ、秋には風にのるための白い羽毛状持った実が見られる。センニンソウは茎、葉に皮膚がかぶれる有毒成分を持った有毒植物である。漢方では、利尿、鎮痛などに用いられる。
- ・トウネズミモチ（唐鼠糞）（中国原産）は常緑小高木で、黒紫色の実をつけている。在来のにズミモチより大きく、葉脈が透けて見えることにより見分けられる。鳥類（アカハラ、カラス、キジバト、ツグミ、ヒヨドリ、レンジャクなど）の食餌植物である。漢方では、果実（女貞子）は強壮強精薬、葉（女貞葉）消炎、鎮痛薬に用いられる。
- ・エノキ（榎）は落葉高木で大きな木や、実生が見られる。赤褐色の実は食用となり、鳥鳥類（アカハラ、カラス、シメ、シロハラ、ツグミ、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロなど）、昆虫類（ゴマダラチョウ、国蝶のオオムラサキ、テングチョウ、タマムシなど）の食餌植物で、出くわすかもしれません。かつては、一里塚に用いられていました。
- ・ムクノキ（椋木）は豆島最大の落葉高木であったが、洪水等の浸食により傾き、根がむき出しになり枯死したが、枯れる直前に沢山の実を付け、実生を残した。ムクノキの黒紫色実には食用となり、鳥類（アカハラ、カラス、キジ、キジバト、シメ、シロハラ、ツグミ、ヒヨドリ、ムクドリなど）の食餌植物となる。葉には短い伏毛があり著しくざらつき、紙やすりの代用として爪削りや、銭磨きとして用いられる。
- ・クスノキ（楠）は、常緑高木で、芳香があり、長寿で、大木になり天然記念物に指定されることがある。鳥類（アカハラ、カラス、キジ、ツグミ、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、レンジャクなど）、昆虫類（アオスジアゲハなど）の食餌植物である。樹皮材から樟脳をとりだし、カンフルの原料、防虫剤として用いられた。漢方では、樟木として胃痛、関節痛、痛風、皮膚病などに用いられる。
- ・アキニレ（秋楡）は、落葉小高木で、川沿いに多く浅根性のため洪水時に根が洗われ流出したが、新たな芽生えが見られた。大きくなると樹皮が鱗片状に剥がれる。アキニレは鈍い鋸歯で小さい

葉を密につける。若芽、翼果（種子）は食用となる。特に種子は飢饉の時の重要な食糧となったと言われている。

- ・ ヒイラギ（柊） は、常緑小高木で、葉には刺状の歯牙があるが老木となると全縁になる。ヒイラギは雌雄異株で香りのよい白色花を咲かせる。実は、鳥類（アカハラ、ツグミ等）の食餌植物である。節分にヒイラギの枝を戸口にさして邪鬼の侵入を防ぐ風習がある。
- ・ ナンテン（南天） は、常緑低木で白い花を多数つけ、実は赤く熟す。鳥類（ヒヨドリ、ムクドリなど）の食餌植物である。漢方では、果実は鎮咳薬、葉は感冒、百日咳、血尿など、根は清熱、除湿薬として用いられる。樹皮には、知覚神経を麻痺させる成分がある有毒植物である。
- ・ マンリョウ（万両） は、常緑低木で白い花を咲かせ、実は赤く熟す。鳥類（ツグミなど）の食餌植物である。正月の飾りとして用いられる。キミノマンリョウやシロミノマンリョウなどの園芸種がある。
- ・ ノイバラ（野茨薔薇） は、鋭い刺をもった落葉低木で芳香のある白い花を咲かせ、実は赤く熟す。花は香がよいため香水の原料に用いられる。鳥類（アオゲラ、アカハラ、オシドリ、キジ、キジバト、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ヒヨドリ、ムクドリ、ルリビタキなど）の食餌植物である。果実は利尿剤、解毒剤、葉は化膿性疾患、根は解毒剤などの薬用として用いられる。
- ・ ヤブカンゾウ（藪萱草） は多年草でワスレグサとも言われ、黄赤色の八重咲きの花を咲かせる。若葉は食用となる。根は漢方で利尿、消炎、止血薬、黄疸などに用いられる。
- ・ メハジキ（目弾き） は 2 年草で淡紅紫色の花を咲かせる。ヤクモソウ（益母草）とも言われ、産前産後の保健薬としたことによる。漢方では、活血、調経、月経不順、悪阻など婦人病薬として用いられる。万葉集では土針として詠われている。
- ・ クコ（枸杞） は落葉低木で美しい淡紫色の花を咲かせ、実は赤く熟す。鳥類（キジ、シロハラなど）の食餌植物である。若葉は食用や茶に用いられる。根は地骨皮と呼び、消炎、解熱、強壮薬に用いられる。果実は果実酒、強壮薬、強精薬として用いられる。
- ・ ヒガンバナ（彼岸花） は中国原産の多年草で秋にあでやかな鮮紅色の花を咲かせる。鱗茎はアルカロイドを含む有毒植物である。
- ・ タチバナモドキ は中国原産の常緑低木で白い花を咲かせ、果実は橙黄色に熟す。
- ・ トキワサンザシ は西アジア原産の常緑低木で白い花を咲かせ、果実は鮮紅色に熟す。

- ・シロツメクサ（白詰草）はクローバーと呼ばれるヨーロッパ原産の多年草で白色の花を咲かせる。通常は、3小葉からなるが、4小葉は幸運をもたらすと言われている。花輪や蜜吸い遊びなど子供たちが楽しめる植物である。



豆島環境学習会を終了して、漁船を見送る生徒たち